

この人 むつちゅう星

下北アピオス振興会 会長 河野 紹視つぐみさん



北米東部原産で明治時代に青森県に渡ってきたとされる「インディアンの戦闘食アピオス」。世界3大健康野菜のひとつと言われています。この野菜を平成24年から栽培し、3年前に発足した下北アピオス振興会の会長を務める河野さん。

アピオスとの出会いは、県が実施したまさかりアピオス産地づくり事業でした。無農薬でも栽培しやすいこと、栽培中の鳥獣被害が少ない作物であることを知り、アピオス栽培を下北地域に残る産業にしたいと、日々「下北アピオス」のブランド化に向けて奮闘しています。

3月5日(日)には、アピオス料理ナンバー1決定戦「あびー1グランプリ」を開催する予定。来場したみなさんにもグランプリを決めていただくことができます。アピオスの魅力、感じてみませんか？

〈いつ〉3月5日(日)午前10時～
〈どこで〉むつちゅうランドホテル
〈入場料〉無料

問 下北アピオス振興会事務局
☎ 34-9330

連載

しもきたTAB I あしすと vol.10



インバウンド特別セミナー 外国人観光客誘致の取り組み

日本を訪れる外国人観光客は年々増え続け、昨年1年間の観光客数は2,400万人に達しています。しかしながら、下北半島を訪れる外国人はごくわずか。宿泊施設や飲食店などの受入体制もまだまだ不十分なのが現状です。そこで、しもきたTAB I あしすとでは、下北半島に

外国人観光客を呼び込むための「インバウンド特別セミナー」を、昨年12月19・20日と2月1日に開催しました。

第1回は、インバウンド戦略アドバイザーの村山慶輔氏を講師に迎え、インバウンドの基礎知識から最新の動向、下北半島の可能性などを語っていただきました。

第2回では、台湾N.O.1の訪日観光情報サイト「樂吃購(ラーチ・ゴ)ー! 日本」を運営する吉田皓一氏に、台湾のメディア事情や効果的なPRの仕方など実践的なお話をいただきました。

両氏とも「年間22万人の台湾人観光客が訪れている北海道・函館から、いかにフェリーで下北半島に渡っていただくかが重要」と指摘されていました。

台湾と下北半島とは歴史的な結びつきが非常に強く、宮下宗一郎理事長自らプロモーションに赴くなど、魅力の発信に努めてきました。しもきたTAB I あしすとでは、これからも関係機関と連携しながら、台湾をはじめ外国人観光客の誘致に取り組んでまいります。まさか下北半島に広がれ、交流の輪!



問 一般社団法人しもきたTAB I あしすと

☎ 31-1270